

ひろせの風

対談

脳神経内科医

院長 美原 みはら

盤 ばん



群馬県健康福祉部

部長 國代 くにしろ
尚章 なおあき



夏号のテーマ

- 神経難病患者さんご家族が**住み慣れた地域で暮らし続ける**ために
— レスパイトケア目的の入院と群馬県の支援を考える —



公益財団法人 脳血管研究所
美原記念病院
Mihara Memorial Hospital



レスパイトケア目的の入院推進に向けた対談

神経難病患者さんにご家族が 住み慣れた地域で暮らし続けるために — レスパイトケア目的の入院と群馬県の支援を考える —

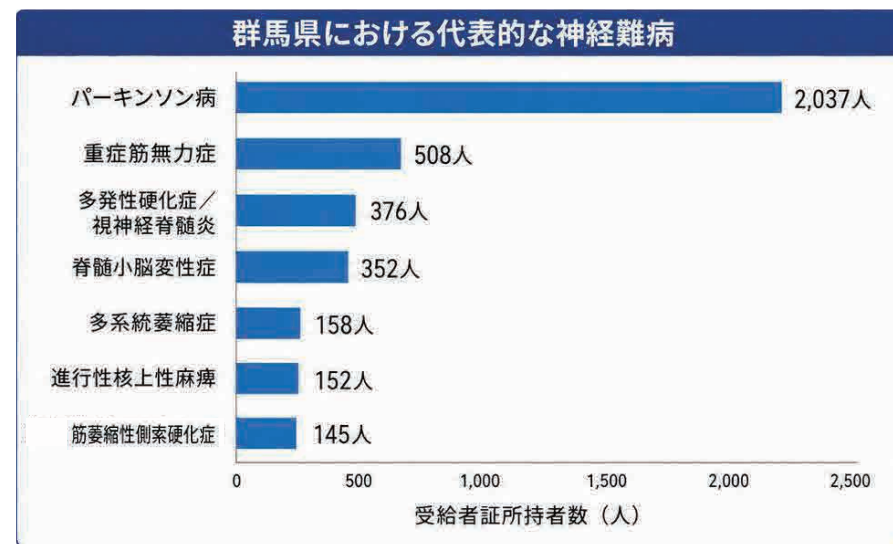
群馬県における 神経難病患者の現状

菊地 群馬県における神経難病患者さんの状況を令和6年度衛生行政報告例をもとに整理しました。指定難病の中でも神経難病は最も多くを占めています。なお、これらは特定医療費受給者証に基づく数字であり実際の患者数はさらに多いと考えられます。

今回の対談のテーマである在宅難病患者一時入院事業の対象となるALS(筋萎縮性側索硬化症)患者さんは県内に約145名いらっしゃいます。神経難病は長期療養を要し病状の進行に伴って患者さんやご家族の負担は大きくなります。人工呼吸器などの医療機器を使用する場合には受け入れ先が限られるため、医療機関で一定期間患者さんを受け入れるレスパイトケア目的の入院(レスパイト入院)は在宅療養を支え



菊地 豊 副センター長



出典：令和6年度 衛生行政報告例「特定医療費(指定難病)受給者証所持者数」

重要な役割を果たしています。

一方で、神経難病の入院にはリハビリテーションや病状評価、治療調整などさまざまな目的があります。その中でも、患者さんご家族が安心して在宅生活を続けるための支援としてレスパイト入院は重要な位置づけにあると考えています。そこで、在宅難病患者一時入院事業を県としてどのように位置づけているのか、お聞かせください。

國代 まず、美原記念病院には毎年多くの難病患者さんを受け入れていただいております。また、今年度実施する協力病院向け研修でも菊地さんにご協力いただく予定で大変心強く

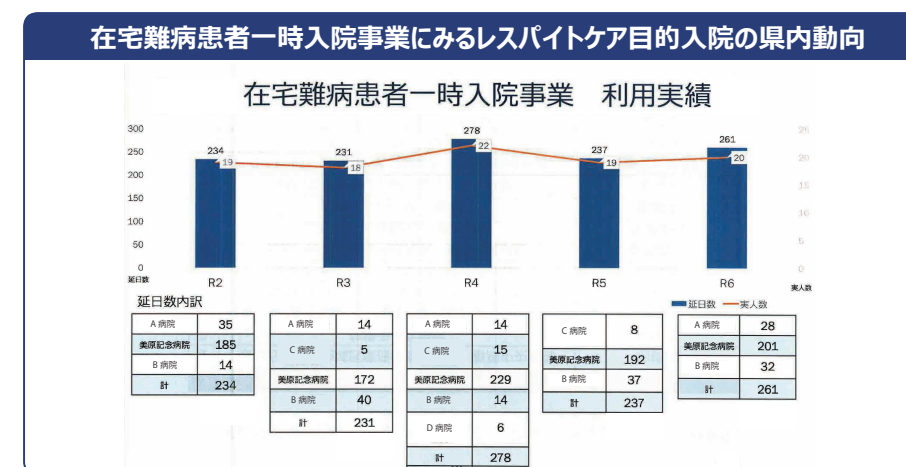
感じています。

現在は一部の医療機関に負担が集中していることが課題です。患者さんが住み慣れた地域で安心して療養を続けられるよう地域全体で支える体制を整えていかなければなりません。



國代 尚章 部長

一方で、患者さんやご家族には普段から信頼しているかかりつけ病院に対応してほしいという思い



出典：令和7年度第2回群馬県保険医医療計画会議資料

があります。そのため単に受け入れ施設を増やすだけでは十分ではありません。神経難病の特性を理解したケアをより多くの医療機関で実践できる体制づくりが重要だと考えています。

今年度の協力病院向け研修もその一環です。各医療機関が神経難病患者さんへのケアを実践できるようになれば患者さんやご家族にとって利用しやすい環境が整い事業全体の充実につながると期待しています。

患者さんへの 周知と認知の課題

美原 群馬県には多くの神経難病患者さんがいらっしゃいます。そ

の中にはレスパイト入院を利用したい方や在宅療養を続けるための選択肢として活用できる方がまだ多くいらっしゃるのではないのでしょうか。しかし制度そのものを知らなければ選択肢にはなりません。レスパイト入院の存在や意義が患者さんやご家族に十分届いていないことが課題だと感じています。

当院では現在200名を超える患者さんが病棟を利用していますが、本来支援を必要としている方々全



美原 盤 院長

体から考えると利用につながっているのはまだ一部ではないでしょうか。制度が知られていないのか、医療機関から十分案内されていないのか、あるいは利用を希望しても申請につながっていないのか、その要因を整理していく必要があると思います。

國代 要因は一つではないと思います。患者さんやご家族が制度を十分に知らない場合もあればかかりつけ医療機関から情報が十分に伝えられていない場合もあるでしょう。

また、制度の説明によっては医療機関側の仕組みとして受け止められ、患者さんにとってどのようなメリットがあるのかが伝わりにくいこともあります。レスパイト入院は医療機関のためではなく、患者さんご家族の生活を支える制度です。その意義を分かりやすく伝えていくことが大切だと考えています。

美原 制度を知っていても「自分たちにどのような意味があるのか」が分からなければ利用にはつながりません。レスパイト入院が在宅療養を続けるための支えになるこ

とや、ご家族にとっても安心して介護を続けるための選択肢になることを患者さんやご家族の立場に立った言葉で伝えていく必要があると思います。

國代 県としても患者さんやご家族への周知は十分ではないと感じています。そこで今年度、保健所で把握している人工呼吸器を使用している48名の方を対象にアンケートを実施しました。レスパイト事業を知っていただくことも目的の一つでした。

17名の方から回答をいただきましたが「制度を知らなかった」という声も多く寄せられました。また、制度を知っていても「まだ利用する段階ではない」「利用しにくい」といったご意見もありました。制度の周知だけでなく利用への心理的なハードルを下げる取り組みも必要だと感じています。

菊地 まさにそこが大切だと思います。この事業を患者さんが知るきっかけをどうつくるかが重要になりますね。当院ではこれまで必要な患者さんには制度の利用を提案し申請につなげてきました。しか

し、制度を知らない患者さんやご家族、あるいは十分に案内されていない医療機関に対してどのような情報を届けていくかについては、私たちも改めて考える必要があると感じました。

國代 人工呼吸器を使用している方についてはレスパイト事業だけでなく、災害時支援の観点からも保健所や福祉分野と連携しながら継続的に支援しています。そうした機会を活用し「必要なときにはレスパイト事業を利用できる」という情報を、患者さんやご家族へ丁寧に伝えしていきたいと考えています。

専門性のある レスパイトケアとは何か

武智 レスパイト入院における「専門性のあるケア」とはどのようなものなのでしょうか。今後受け入れ医療機関を広げていくうえでも重要な視点だと思います。

受け入れたいという思いがあっても神経難病患者さんへの対応に不安を感じ一歩を踏み出せない医療機関も少なくありません。そこで美原記念病院が長年取り組まれて

きた中で特に大切にしていることや、神経難病の特性を踏まえたケアにつながっていると感じることをお聞かせください。



武智 浩之 課長

菊地 大きかったのは院長が「この分野に取り組む」と明確な方針を示しリーダーシップを発揮したこと。もちろん当初は職員も経験のない領域への挑戦でしたから戸惑いや負担もありました。

神経難病の患者さんは一人ひとりの個性が高く、ケアには多くの時間と労力を要します。少数の患者さんを散発的に受け入れるだけでは経験が蓄積されずケアを標準化することも容易ではありません。

当院では約25年間にわたり継続して神経難病患者さんを受け入れてきました。現在も常時30～40名程度、年間では約600件の入院に対応しています。こうした経験の積み重ねがあるからこそ「ALSでは何が必要か」「パーキンソン病ではどのような支援が求められるか」といった知見が蓄積され、個性を尊重しながらも一定の標準化を図ることができるようになったのだと思います。

美原 以前はレスパイト入院では「病院でも自宅と同じ環境をつくらなければならない」と考えていまし

た。患者さんが安心して過ごせるよう自宅で使用している物品を持ち込んでいただくなど、生活環境をできるだけ再現することに力を注いでいました。

しかし今振り返ると、それだけがレスパイト入院の本質ではありません。最も大切なのは、神経難病患者さんと適切にコミュニケーションを取り、その人の思いや意思を理解しようとする姿勢です。意思疎通が難しい状況であっても患者さんが何を望んでいるのかを丁寧にくみ取ることが専門性のあるケアの出発点だと考えています。



美原 盤 院長

専門性は知識や技術だけで成り立つものではありません。患者さんに向き合う姿勢やその人らしい生活を支えたいという思いも大切な要素です。当院では神経難病患者さんとの関わりを積み重ねる中で看護師やリハビリスタッフが意思決定支援やACPにも自然と高い関心を持つようになりました。こうした姿勢も専門性の一つだと思います。

提言 事業の普及と行政への発信

國代 本日のお話を伺いレスパイト入院を広げるには「標準化」という視点と、それを支える患者さ



令和8年6月24日(水)撮影

んへの「思い」が重要だと改めて感じました。レスパイト入院は介護負担を軽減するだけでなく、患者さんやご家族が安心して在宅療養を続けるための大切な支援です。その意義を広く発信するとともに、神経難病に対応できる医療機関の育成や地域全体で支える体制づくりを進めていく必要があります。また、美原記念病院が長年の経験を積み重ね試行錯誤を重ねながらケアの標準化を進めてこられたこと、そして患者さんへの「思い」は継続した関わりの中で育まれるというお話は大変印象的でした。行政としても医療機関との連携を深めながら、患者さんやご家族が安心して利用できる環境づくりを進めていきたいと考えています。

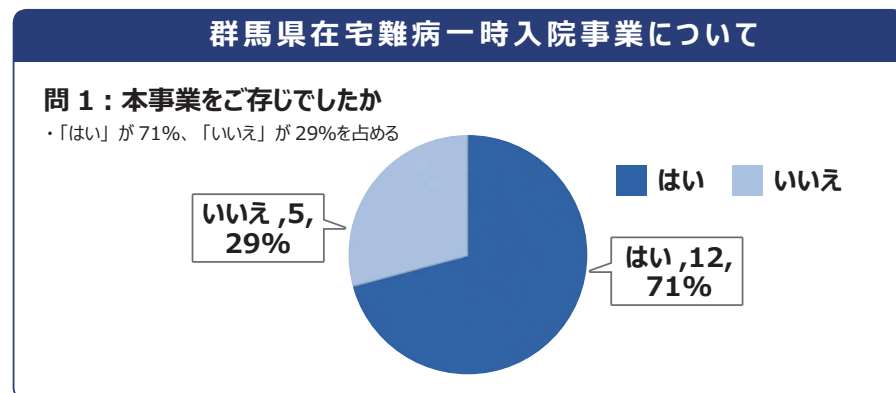
美原 レスパイト入院は患者さんの生活を支えるための一つの選択肢です。「入院すること」は在宅生活を諦めることではありません。在宅での暮らしを続けるために必要な時に医療の力を借りる仕組みなのだとすることを多くの患者さんやご家族に知っていただきたいと思います。その理解が広がることで必要な時に安心して制度を利用

できる環境につながっていくのではないのでしょうか。

武智 私たちも以前からこの事業には課題意識を持って取り組んできましたが、これまでは課題を共有するにとどまり具体的な広がりにつなげるまでには至っていません。今回の対談を通じて行政と医療機関が同じ方向を向き、患者さんやご家族の在宅療養を支えたいという思いを改めて共有することができました。レスパイト入院を広げるためには、制度の周知に加え神経難病患者さんに対応できる医療機関を増やし、地域全体で支える体制づくりを進めることが重要です。今回の対談を一つの出発点として今後も行政と現場が対話を重ねながら、患者さんやご家族にとって利用しやすい事業へと発展させていきたいと思っています。本日はありがとうございました。



令和8年6月24日(水)対談の様子



出典：令和8年度群馬県健康福祉部説明会資料
令和6年度実績在宅で人口呼吸器を装着している
難病患者さんを対象としたレスパイト入院のアンケート調査結果

患者さんの毎日に安心と笑顔を届ける

私の仕事と 研究活動について

医師が「頭痛やめまいの原因は？」「転倒による骨折はないか？」を正しく判断し適切な治療につなげるためには、体内の状況を画像から把握する必要があります。そこで活躍するのが私たち「診療放射線技師」であり、普段は見ることでできない体内の情報を一般撮影（レントゲン）、CT検査、MRI検査、血管撮影検査、核医学検査等の画像検査により可視化させる専門家です。医師の『確かな診断』と患者さんの『最適な治療』を支えるため、日々の検査に臨んでいます。

私は、撮影業務に加え研究活動にも力を入れています。「この病気をもっと鮮明に撮影する方法はないか？」「患者さんの撮影時の負担を減らせないか？」等の臨床現場での疑問を解決し、研究成果として報告することで医療の発展に寄与することを目指しています。



▲ 検査画像の確認

最近の研究成果

今年の5月に南アフリカ共和国のケープタウンで開催された2026 ISMRM & ISMRT Annual Meeting

画像診断課
放射線技師
主任 大川 竜也

趣味：料理
海外旅行
離島めぐり



& Exhibitionに参加し、研究発表を行いました。本会は、MRI（磁気共鳴画像法）に携わる多分野の専門家が集まる世界最大規模の国際学会です。私は、頭部領域のMRI検査における撮影時間の短縮に関する研究成果について発表しました。また、MRIの臨床技術に分類された研究成果の中から、審査員による評価で特に優れた成果・発表と認められたものに贈られる「ISMRT - 2nd Place Oral Presentation for Proffered Papers - Clinical Focus」を受賞し、現地にて授賞式にも参加させていただきました。この受賞を大きな



▲ 国際学会で研究成果を発表

励みとし、日々の画像検査の質をさらに高め、迅速な診断・治療により一層貢献できるよう努めています。



▲ ケープタウンでの授賞式

皆さまへ

当院の画像診断課では、最先端の画像診断装置と高い撮影スキルを用いて画像検査を行っています。また、日々の臨床現場で見つかる課題を研究活動という形で常に改善できるよう努力しています。検査内容に関して疑問や不明な点がある場合は、私たち診療放射線技師に気軽にお声がけください。

連携医紹介

当院では地域のかかりつけ医との連携強化に努めています

Q1. 患者さんと接する時に意識されていることは？ Q2. 先生の『モットー』は？ Q3. 地域の皆さんへメッセージを！

【予約不要】
CT・MRI設置



院長
平賀 健司 先生

出身地：東京都
趣味：ゴルフ

ひらが脳神経外科

診療科目
■脳神経外科 ■内科

- Q1.** 親身になって相談に乗ること。病気のこと以外でもじっくり話を聞くこと。そこから発見できることがありますからね。
- Q2.** 『自由』 子供が東京にいますので、SNSで調べた東京で人気のあるラーメン屋さんに行ってきます。チートデイです(笑) 太るので、1週間かけて体重をもどします。人生終わる前に、やりたいことをとことんやろうと思っています。
- Q3.** 地域のクリニックしかできない、地域に根ざした病院であり続けたいと思っています。些細なことでも相談して欲しいですね。何もなければそれでよし！美原記念病院を紹介できる体制も強化しているので、気軽にご来院ください。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	休診日
9:00～12:00	○	—	○	○	○	○	—	■火曜 ■日曜 ■祝日
15:00～19:00	○	—	○	○	○	▲	—	

▲土曜午後 14:00～17:00
祝日のある週は火曜日も診療いたします

お問合せ先

住所：〒370-1124 群馬県佐波郡玉村町大字角刈5067
TEL：0270-30-2121 URL：https://www.hiraga-nougeka.com/

【訪問診療】
24時間365日対応



理事長・院長
高橋 研吾 先生

出身地：群馬県
趣味：テニス
キャンプ

伊勢崎クリニック

診療科目
■内科 ■脳神経内科

- Q1.** 不安や困っていることなど、患者さんの「背景」にある声に耳を傾けるよう心がけています。生活の場に何うからこそ、皆さまがリラックスして何でも話せるような温かい空気間を大切に、心を通わせながら日々の診療に臨んでいます。
- Q2.** 患者さんご家族がそれまで紡いできた「暮らしの背景」までを視野に入れたケアを提供することです。日々の治療はもちろん、一歩先を見据えた予防医療にも力を注ぎ、皆さまが住み慣れた地域で健やかに、安心して明日を迎えられるよう伴走いたします。
- Q3.** 認知症や脳疾患、消化器疾患、循環器、精神科などの幅広い領域のスペシャリストがチームとなり、外来や訪問診療を行っています。体の不調はもちろん、「ちょっと気になるな」と思うことがあれば、いつでも気軽にお立ち寄りください。「こんなことで呼んでもいいのかな」と迷う段階でも構いません。地域に深く根ざした身近なパートナーとして、どうぞ安心してお頼りください。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	休診日
9:00～12:00	○	○※	○	○※	○	—	—	■土曜 ■日曜 ■祝日
13:00～17:00	○	○	○	○	○	—	—	

※外来診療は予約制です。火曜、木曜の9:00～12:00となります。
訪問診療は、まずお電話にてご相談をお願いいたします

お問合せ先

住所：〒372-0013 群馬県伊勢崎市上植木本町2490-1
TEL：0270-61-8712 URL：https://isesaki-cl.com/

当院は地域の急性期脳卒中診療の中核を担う 一次脳卒中センターコア施設です

群馬県内で
認定されている
5施設の一つです
(2026年3月現在)

24時間体制の専門医療と、生活を支える相談窓口

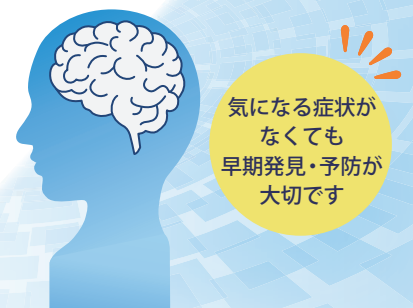
当院は、日本脳卒中学会より「PSC(Primary Stroke Center：一次脳卒中センター) コア施設」に認定されています。一分一秒を争う脳卒中に対して、24時間365日いつでも迅速に高度な治療を提供できる体制を整えています。さらに、治療の先にある生活を支えるため、専門知識を備えた「脳卒中療養相談士」による相談窓口を設置しています。退院後のリハビリや生活への不安、介護の悩みなど、相談士が丁寧にサポートしています。PSC コア施設として、これからも地域のみなさまの命と健康を守るため、より安全で質の高い医療を提供して参ります。



あなたの「脳の健康」を、 脳ドックでチェックしませんか？

こんな方に
オススメ

- 高血圧・糖尿病・脂質異常症などの生活習慣病がある方
- ふらつき・めまい・頭痛などの症状がある方
- 脳ドックの受診経験がない方

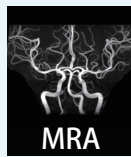


当院の脳ドックコース 22,000 円 (税込)



標準脳ドック

- ・ MRI 検査
- ・ MRA 検査
- ・ 頸動脈 MRA 検査



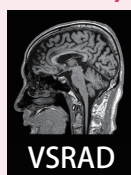
脳梗塞、動脈瘤、脳腫瘍などを早期発見

おすすめ!



認知機能チェック付き脳ドック オプション検査:VSRAD(ブイエスラド)

標準の脳ドックに、認知症のリスクを早期に評価するオプションを追加したコースです。



標準の脳ドックにプラス 5,500 円 (税込)

※合計 27,500 円 (税込)

脳ドックの費用に対して 補助金 が受けられます!

最大
20,000 円
の補助

対象となるのは、伊勢崎市の「脳ドック受診補助金」です。
対象の方は、**市に申請することで補助**を受けられます。



健診予定が
決まってから申請

まだ申請はできません。
健診予定日が決まってから
申請してください。



自らが申請が必要です

待っていれば届くものではありません。ご自身で
申請してください。

申請方法や詳細は、伊勢崎市のホームページをご確認ください。



補助金の対象がどうかに関わらず、

どなたでも当院の脳ドックを受けていただけます。



ご予約・お問合せは、お電話または窓口まで
詳しくは当院ホームページもご覧ください。

専門医による診断・説明

日本脳神経外科学会専門医 / 日本脳卒中学会専門医 /
日本脳血管内治療学会専門医などが診断します。

お問合せ先

公益財団法人 脳血管研究所 美原記念病院

〒372-0006 群馬県伊勢崎市太田町366 <https://mihara-ibbv.jp>

TEL : 0270-24-3355 FAX : 0270-24-3359 E-mail : mihara-hosp@mihara-ibbv.jp

